

〈隷書〉

挑泉帶月歸

吉田成美先生書

(この課題で書体は自由。但し、この課題は一人一点のみとする)

半折作品は各課題ごとに横／＼に一枚ずつたたんで提出ください。

〈楷書〉

挑泉帶月歸

井之上 南岳先生書

□ 泉を挑^{すく}い月を帯^おびて帰る (「従容録」九十二)

次号予告「閒中覓伴書爲上 身外無求睡最安」

〈行書〉

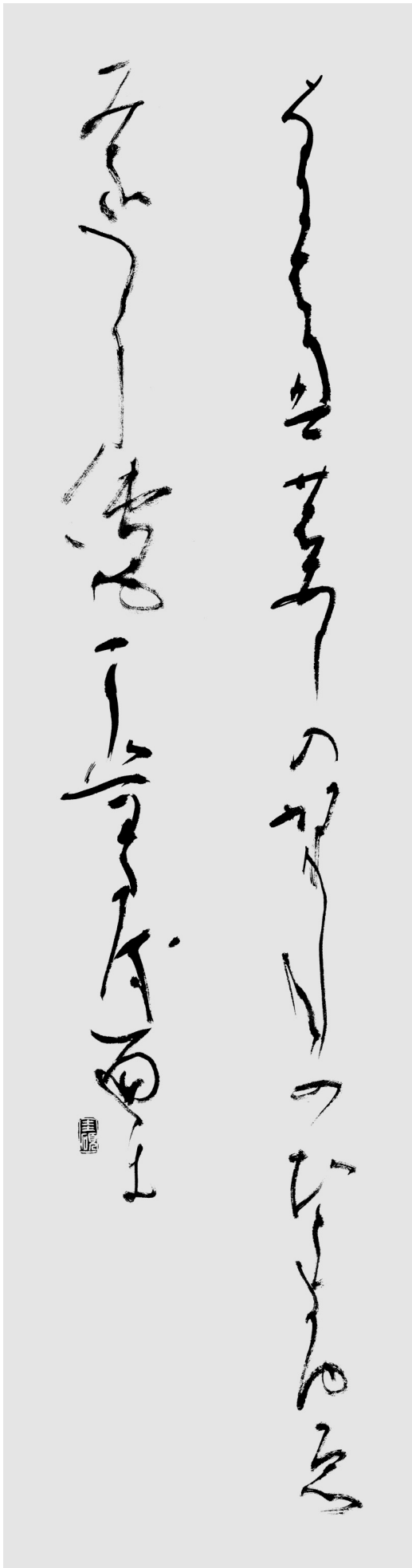


清原大龍先生書

▽ 泉に映った月をすくって帰る。

条幅随意（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

舟尾圭碩先生書



□ 難波江の 芦のかりねの ひとよゆゑ みをつくし傳や 悲王多流遍支

難波江の 芦のかりねの ひとよゆゑ みをつくし傳や 恋ひわたるへき

△百人一首八十八▽

条幅随意（臨書）（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目は一人一点のみとする）

小 畠 秋 聲 先 生 臨

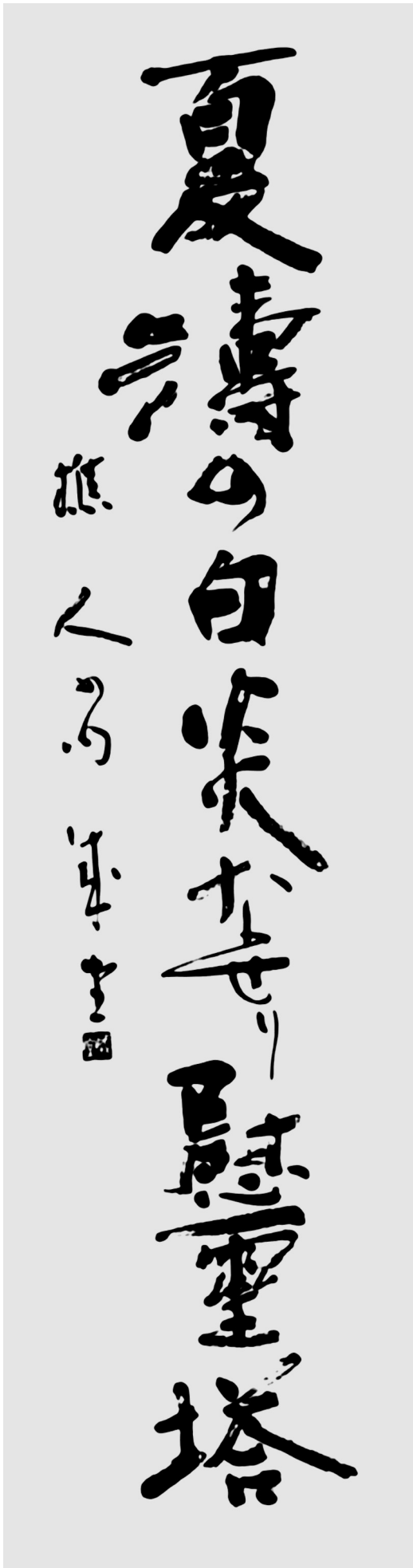


▽ 集字聖教序

遺訓遐宣導羣生於十地然而真教難仰

条幅随意（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

吉 田 成 堂 先 生 書



□ 池上樵人の句 夏壽の 白炎なせり 慰霊塔

△ 手本（課題例）にとらわれず意欲的な作品を期待します。▽

半折作品は各課目ごとに横1/2に一枚ずつたんで提出ください。

条幅 随意参考手本（半折 $\frac{1}{2}$ 横のみ） — 6月末日締切 —

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

△手本（課題例）にとられず意欲的な作品を期待します。▽



山 本 飛 雲 先 生 書

□ 岸原清行の句

砂山に蟹も這ひ出で月を待つ
右から左への進行のリズムを意識して書きました。



渡 邊 大 嶽 先 生 書

□ 「十」駕
(荀子・勸學)

凡庸な人でも不断に努力すれば成功する。
力強く、出だしの「十」は「駕」でリズムに乗って一気に呵成に書いてみましょう。

※半折 $\frac{1}{2}$ 横の出品票は作品の左下に貼って提出下さい。

(この課題で書体は自由。但、この課題は一人一点とする)

□ 南風(なんふう)帰心(きしん)を吹く(唐・李白)
南風が故郷に帰りたい心に吹きつける。



次号予告「樂道而忘貧」

吉田成美先生書

(この課題で書体は自由。但、この課題は一人一点とする)

□ 南風(なんふう)帰心(きしん)を吹く(唐・李白)
南風が故郷に帰りたい心に吹きつける。



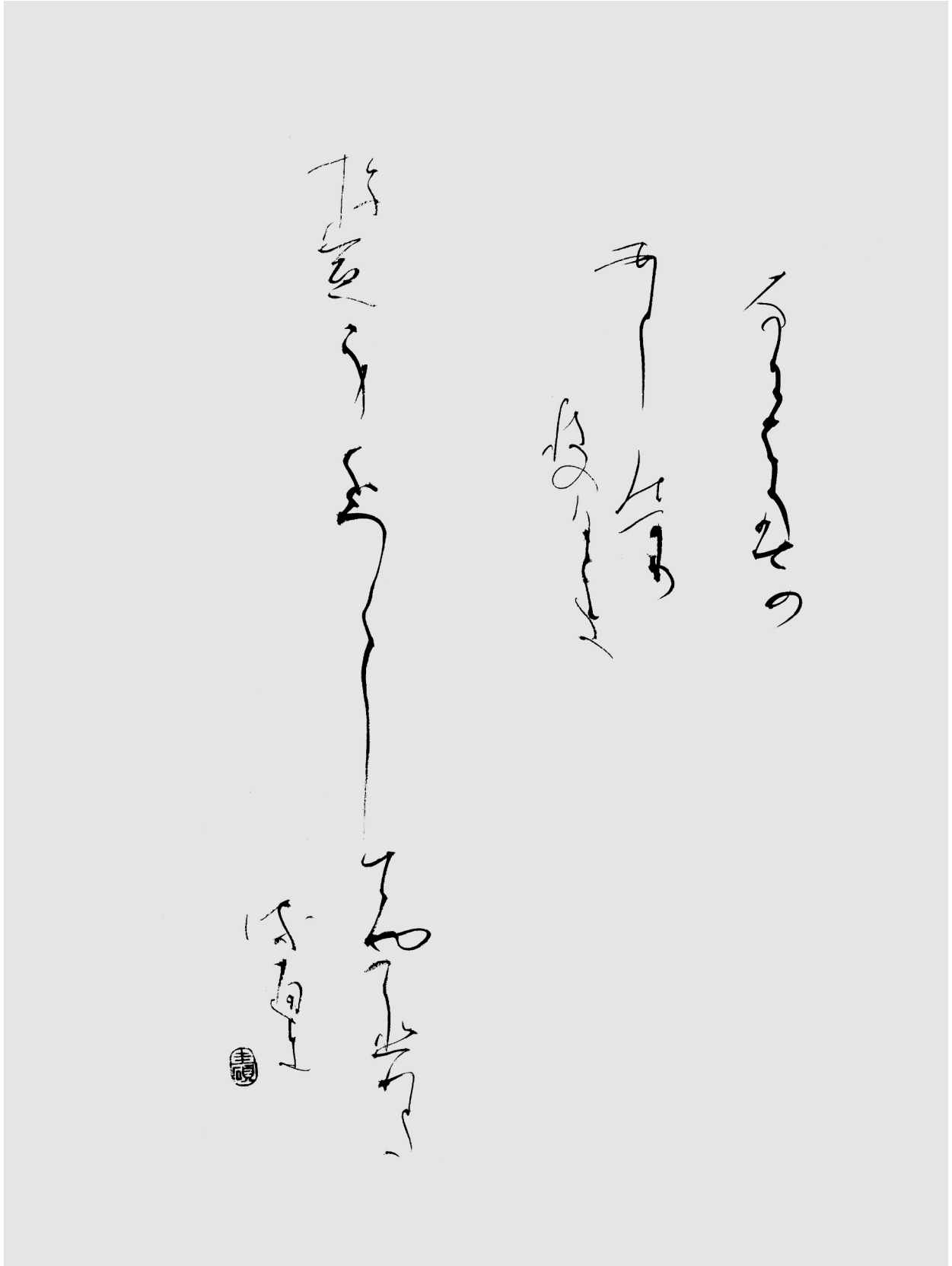
次号予告「樂道而忘貧」

吉田成美先生書

半紙随意参考手本 — 6月末日締切 —

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

難波江の
芦のかりねの
ひとよゆゑ
みをつくしてや
恋ひわたるへき



△飯名▽

な^には^はえ^え
なる者盈の
あし能^の可^かり^りね^の
日^ひと^とよ^よ遊^ゆゑ^ゑ
身^みを^をつ^つく^くし^して^てや^や
こ^こ悲^ひわ^わ多^た流^る遍^る支^へ
支^き

舟尾圭碩先生書

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

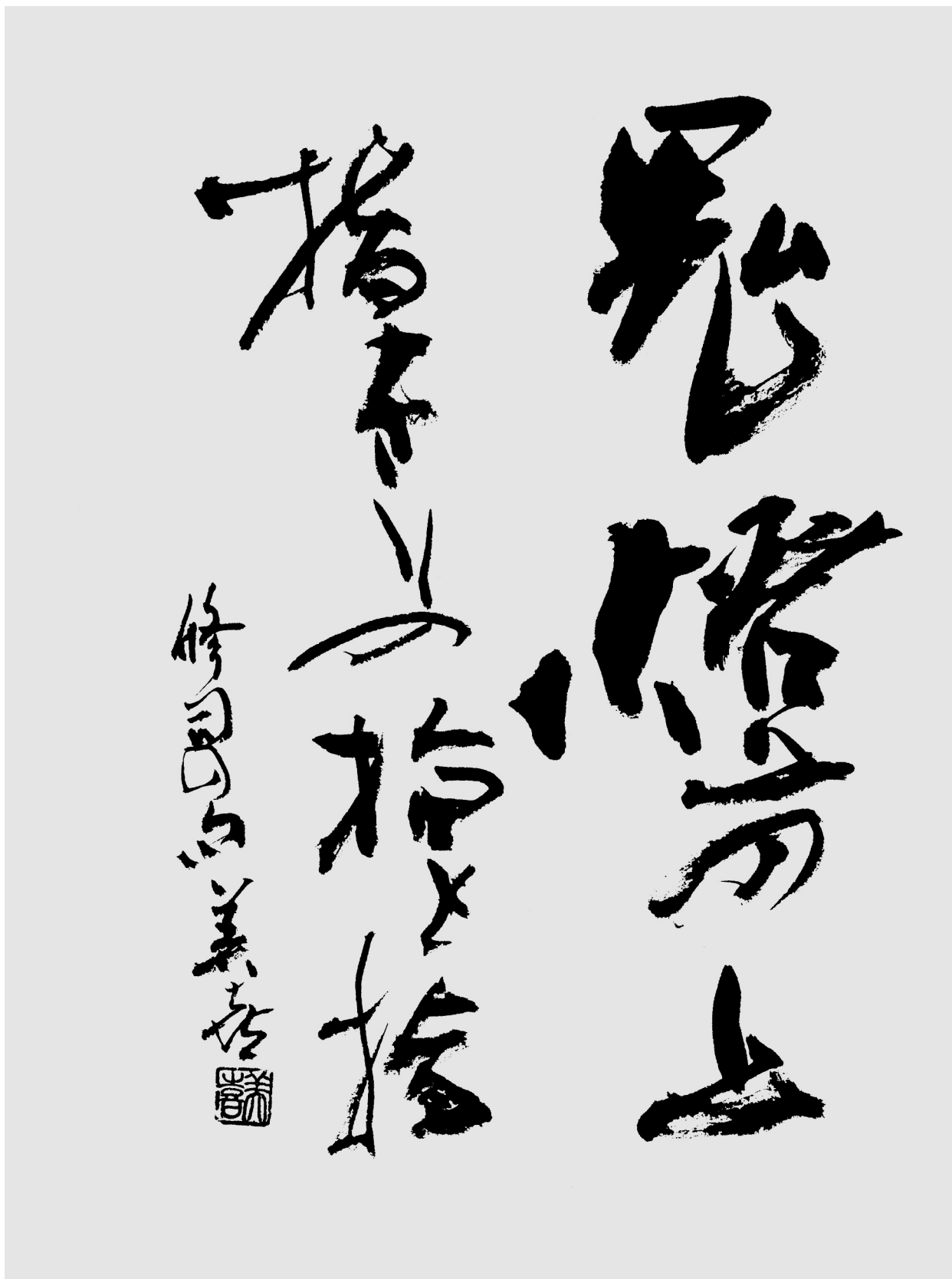
△詩文書▽

寺山修司の句

鬼灯ほおずきの

上指きりの

指と指

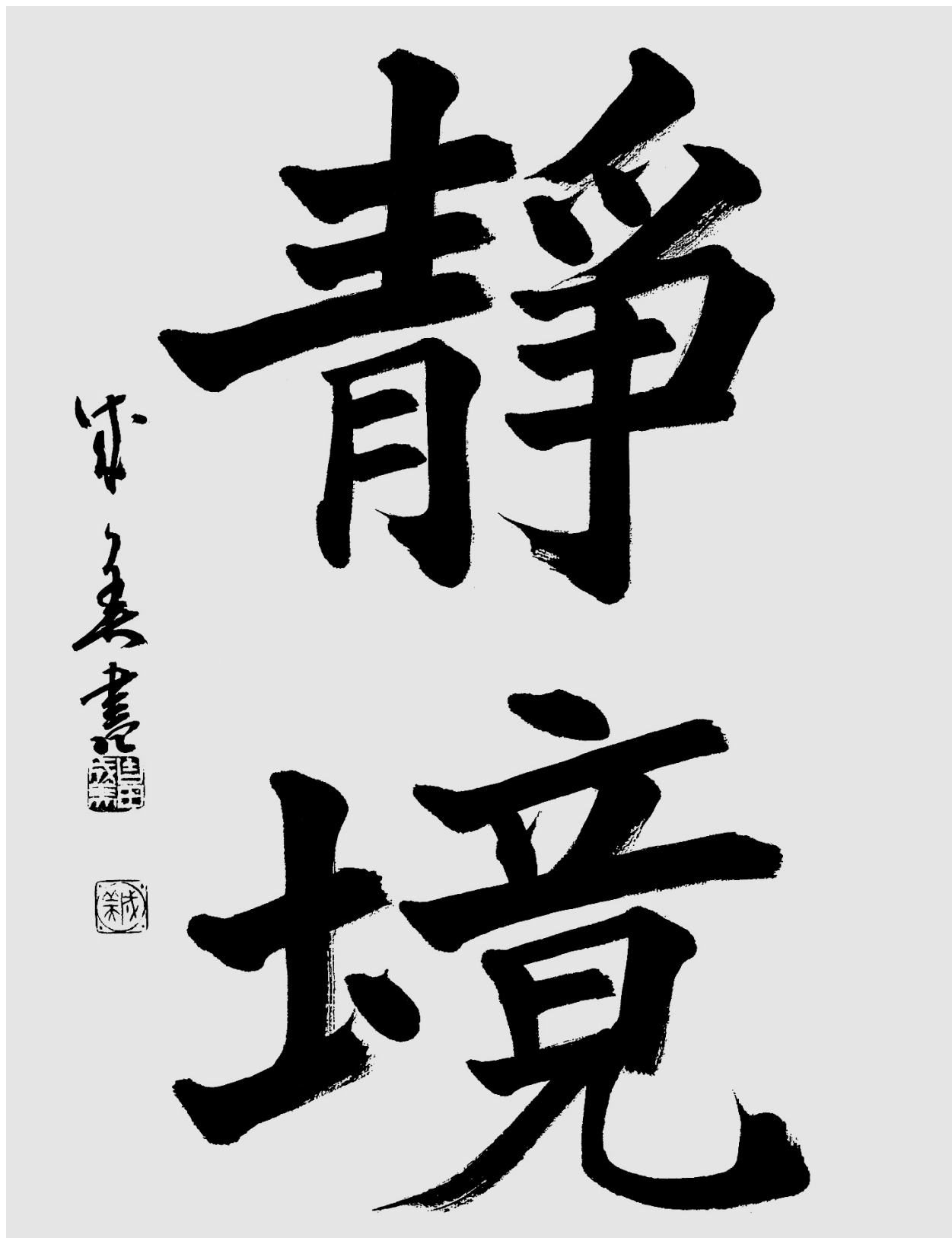


※出品券は、半紙をタテにした左下に貼って提出ください。(ヨコ作品の場合も半紙をタテにして同様に貼ってください)

大竹美喜先生書

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

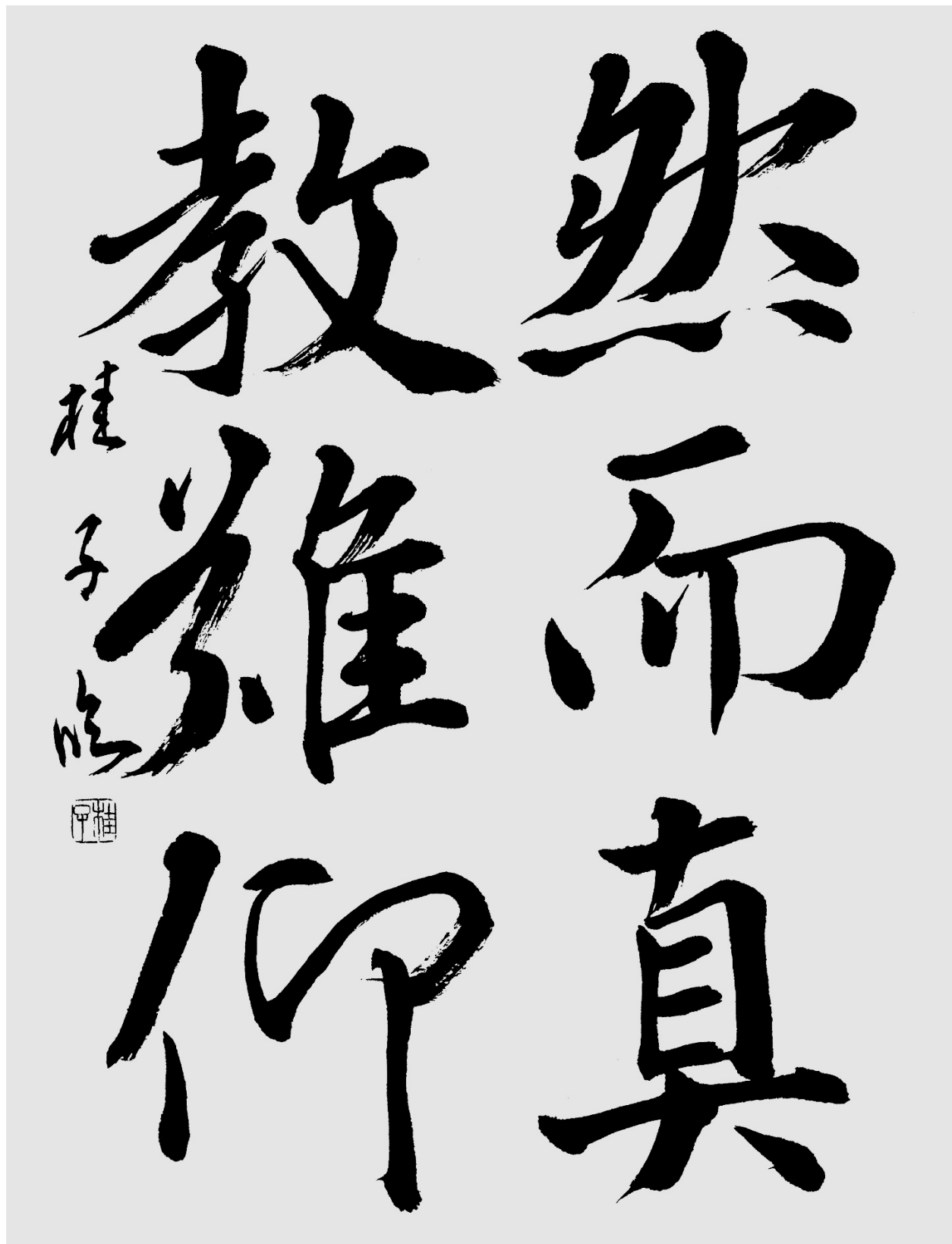
□ 静 境 せいぎょう
もの静かな所。心境。
(唐・白楽天「秋池」)



次号予告「空手還郷」

吉田成美先生書

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課題は一人一点とする）



△臨書▽

最終ページの解説にあるように、集字聖教序には、蘭亭叙からとった字があちこちに出てきます。二つの古典を相互に臨書すると楽しいと思います。

「然而真教難仰」

大坪桂子先生臨

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

姓 号	夏至	入梅	バラ	水無月
	蛍狩り	紫陽花	衣替え	父の日
	慰霊の日	レインコート	稽古始め	時の記念日

△実用書▽

水無月 みなづき
 父の日 ちちのひ
 時の記念日 ときのかんねんじつ
 入梅 いりうめ
 紫陽花 あじさい
 レインコート れいんこうと
 バラ ばら
 夏至 げし
 衣替え いげえ
 蛍狩り へいかり
 稽古始め けいこはじめ
 慰霊の日 いれいのか

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

在職中は大変お世話になりました
青春時代の五年間を皆様と共に過ごせ
たこととても幸せでした現在では六月の
結婚に備え実家の母から主婦業の
特別実習を受けています 高田

△手紙文▽

在職中は大変お世話になりました 青春時代の五年間を 皆様と共に過ごせたこと とても幸せでした
現在は六月の結婚に備え 実家の母から主婦業の特別実習を受けています 高田

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目A・Bのいずれか一点のみとする)

△暮らしに役立つ書▽

書譜

拝啓 暑い夏が近づいてまいりました。
皆様におかれましては、お元気で過ごさ
のうと、存じます。
さてこの度、この数年間にアフリカを回
り撮りためた写真を集めて、写真展を
開くことになりました。皆様にご覧いた
ぎたく、勝手ながら案内状を同封させ
いたします。
会場でお会い出来るのを楽しみ
しております。

敬具

野のある便箋に書いてみよう。

△26 cm × 18 cm▽

紙質は自由。

※ 本研究社にて「特選便箋」を発売しております。本誌裏面をご参照の上、ご利用ください。

小 畠 秋 聲 先 生 書



今月のかきかたドリル

(形や注意する点に気をつけてゆくり書こう！)

中学	小学6年	小学5年	小学4年	小学3年	小学2年	小学1年	ようねん
膝	節	像	現	界	近	と	り
膝	節	像	現	界	近	と	り

一般の方も是非チャレンジしてください。

坂元紫香先生書

白い雲

小学4年

木かげ

小学3年

つばき

小学2年

はま

ようねん・小学1年

（この課題以外の語句のものもよい。但し、その学年にふさわしい語句が望ましい。）

若菜の香

中学2・3年

光る木立

中学1年

感謝の心

小学6年

飛行する

小学5年

坂元紫香先生書

△条幅¼ 四尺画仙紙半折¼ : 68cm × 17.5cm ▽

□「ハライ」「ハネ」「トメ」のふでつかいのちがいにきをつけて、のびやかにかきましょう。

きつば

小学二年

次号予告「ふうりん」

□「むすび」は、ふでのじくだけをまわさないようにきをつけましょう。

はま

ようねん・小学一年

次号予告「なみ」

坂元紫香先生書

□「あめかんむり」の形に気をつけ、や、逆の台形を意識しながらバランスよく書きましょう。

雲

小学四年

次号予告「はすの花」

□文字の布置ふちに気をつけ、「左払い」「右払い」をゆつくりと伸びやかに書きましょう。

木

小学三年

次号予告「光」

吉田成美先生書

小学五年

飛行

次号予告「登山」

□二文字の大きさに注意し、中心のたて画、まわりの空間に気をつけて書きましょう。

小学六年

次号予告「創造」

感謝

□「感」は「心」の大きさ・場所に注意し、「謝」は、ほぼ三等分出来るように書こう。

秋永春霞先生書

中学一年

本立

次号予告「月光」(行書)

□楷書と異なる点画の方向や形の変化を理解し、筆脈を意識して書きましょう。

中学二・三年

次号予告「流れる雲」(行書)

若菜

□筆順の変化を理解して、伸びやかで動きのある、連勢を意識し、流れのある作品にしよう。

吉田成美先生書

段級	
氏名	

あ	な	を	あ	け	ま	す。
く	ち	は	し	て	き	に
と	く	と	が	た		
き	の	き	は	す		

小学一年

段級	
氏名	

き	い	な	が	く		
か	た	の	わ	り	あ	じ

ようねん (※ようねんの方は、小学一年の課題を書いてもよい。但、審査は従来通りです。)

小学四年

<p>自分にとって最高のものを 実現するためには「我 ず動く」^{【はねる】}として考える」^{【のき出ない】} とが大切だと思えます。</p>		<table border="1"> <tr> <td>段 級</td> <td>氏 名</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>	段 級	氏 名		
段 級	氏 名					

ハ分分^{【はねる】} 日早最^{【のき出ない】} 最^{【さい】} 言言重^{【はねる】} 動動^{【はねる】} 一十土老考^{【右から左へはらう】} 考

小学五年

<p>多くの人に知られてゐる古典 の、始まりの部分です。言葉の ひびきやリズムを味わつたり、 様子を想像したりしながら、 声に出して読みましょう。</p>		<table border="1"> <tr> <td>段 級</td> <td>氏 名</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>	段 級	氏 名		
段 級	氏 名					

一 口曲曲典^{【はねる】} 十十昔昔^{【はねる】} 葉葉^{【はねる】} 木木^{【はねる】} 样样^{【はねる】} 样样

小学六年

ニよみのうえでは、立夏から五
 秋の前日までを「夏」といいます。
 夏から秋へと向かっていくのは
 この季節節の様子は、どんが言
 葉で表されていくように。

①とめる ②はねる
 一毛 天季 季 竹管 竹節
 ③はねる

足元で河鹿が鳴いている。腰を下
 ろして、石の陰にでもいるのだ。
 ろうが、張りのあるいし声、川に
 漬けた、ゴム長の、くらはぎを、伝っ
 て、膝の裏をくすぐっている。

④はねる
 一 弓 引 張 張 月 膝 膝 膝 膝 膝
 河鹿 (カジカガエル) 河鹿 (カジカガエル)